
クリスマスプレゼント

ピンプキン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クリスマスプレゼント

【著者名】

NCT-DR

【作者名】

ピンプキン

【あらすじ】

クリスマスのちょっとした話

パパとママと楽しいクリスマス。

ぼくは、クリスマスが大好きだった。

クリスマスにはいつも、手紙に書いた通りのプレゼントをサンタさんが届けてくれる。

今年もクリスマスが近づいてきた。

でも、今年はいつもと違う、

パパがいないから。

去年のクリスマスが終わってからすぐ、パパは姿を消した。

ママは泣きながら泣いていた。

「パパはね、いい人だったから…」

「パパは悪い…パパは何にも…」

ぼくには、ママが言つてることが理解する事が出来なかった。

ただ、パパは

「い」めんな

その言葉だけを残し、ぼくの前からいなくなつた。

クリスマスの日

いつもとは違う、料理は鶏肉もピザもなくて、ケーキもぼくとママでシートケーキがふたつだけ。

本当は、あるいおつきなケーキが食べたかったけど、ママが料理を置くたびに「いめんな、いめんな」と泣きながら何度も言つから、

ぼくは、向にも言えなくなっちゃうんだ。

今年、ぼくはサンタさんにお願い」とをふたつした。

一つは、こつもじおり靴下の中に手紙を入れて、

もう一つは、毎日サンタさんに届けようつとめて願つた。

もう一つの方は、ママのために。ママの悲しそうな姿を見たくないから、3人でクリスマスをで笑つて過ごしたかったから。

そして、ぼくは、サンタさんともう一度だけお願いして、眠りこいた。

翌朝、田が覚めると、まっすぐ靴下へと走った。

中を見ると、入っていたのは、ぼくがサンタさんにお願ひしたのとは全然違つ、よく編み込まれた、赤色のマフラーだった。

と、田にはもうひとつ、「ごめんね」と書かれた、カードだった。
ぼくには分かってしまつたんだ、サンタさんの正体も赤色のマフラーのあつたから。

でも、

でもね、

やつぱり、サンタさんぽいんだ。

だつて、

「ピンポン」

と、雪のよく降る朝と共にやつて来たのは、ぼくが一番に望んだ出来事だったから。

来年からまた、笑つてクリスマスを過ぐせるから。

ありがとう。
サンタさん。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5753p/>

クリスマスプレゼント

2010年12月31日07時32分発行